別紙様式

平成２５年度　附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	附属特別支援学校における研究の成果を全国へ発信する取組（１）
事業実施代表者名	校長　小栗祐美
実施附属学校名	北海道教育大学附属特別支援学校
事業内容 （実施内容について、1,000 字程度で記述）	①学会への発表 平成 25 年 8 月 30 日（金）から東京都の日野市で行われた第 51 回日本特殊教育学会において、本経費を利用して２本のポスター発表を行った。内容は、「社会とかかわる力を育てる 6 つの支援エッセンスの活用～知的障害特別支援学校の小中高の授業実践を通して～」（本校の研究）と「小中学校の校内委員会の在り方に関する研究～センター的機能による“校内委員会”の支援のあり方を探る～」（センターの取り組み）である。別経費の発表「心理アセスメントと ICT を活用した平仮名の単語読み指導～KABC-Ⅱと WISC-Ⅳの結果に基づいた長所活用型指導を通して～」（大学との連携）と合わせて、本校の研究や取り組みを全国に向けて発信した。また、平成 25 年 10 月 19 日（土）から北海道教育大学札幌校で行われた第８回北海道特別支援教育学会においては、本経費を利用して２本のポスター発表を行った。内容は、「社会とかかわる力を育てる授業づくり～三項関係を基盤とした“人間関係を形成する力の発達”に応じた支援の実際～」（本校の研究）と「地域の企業とのコラボレーション授業の試み～ブロック玩具を活用した２つの実践を通して～」（中学部の実践）である。別経費の発表３本「小中学校の校内委員会の在り方に関する研究～センター的機能による“校内委員会”の支援のあり方を探る～」（センターの取り組み）「心理アセスメントと ICT を活用した平仮名の単語読み指導～KABC-Ⅱと WISC-Ⅳの結果に基づいた長所活用型指導を通して～」（大学との連携）「交流校の生徒に障がい特性の理解を深める取り組み～アンケートから交流校の生徒の意識を探る～」（高等部の実践）と合わせて、本校の研究成果を全道に向けて発信した。 ②附属札幌小中ふじのめ学級との研究交流及び授業力向上研究フォーラムへの取り組み 平成 25 年 11 月 29 日（金）にふじのめ学級の研究大会において、本校の研究の取り組みをポスターにて発表する。平成 26 年 2 月

	22 日（土）に行われる本校の公開研究協議会では、ふじのめ学級の発表を計画している。また、平成 26 年 2 月 14 日（金）に附属旭川小学校で行われる授業力向上研究フォーラムの特別支援教育部会の運営のために、本学旭川校、旭川附属学校園、旭川養護学校、ふじのめ学級との打ち合わせ及び連絡、調整を平成 25 年 11 月 6,7 日（水、木）に行った。 ③学校案内の制作及び配布 　平成 21 年に制作した来校者及び見学者に向けた学校案内を見直し、本校の教育内容を分かりやすくまとめ、1,000 部制作し、関係機関にも配布した。制作にかかわっては、校長と本校に新しくできた広報企画部が中心となり、校長の大学研究室の学生の協力もいただいた。
成果と課題 （活動の成果と課題について、500 字程度で記述）	①特別支援学校についての評価は、文部科学省の施策を先導的あるいは実践的に行うほか、学会等への発表をすることで、その評価を受けるという面も多くある。本年度も可能な限り、日本特殊教育学会と北海道特別支援教育学会への参加を呼びかけ、ポスター発表ではあるが、本校の研究や実践を広く全国、全道、地域へと発信することができた。参加された方々からいただいた多くの意見や指摘、感想は、今後の本校の研究や取り組みを継続、発展させることに不可欠である。また、学会に参加することにより、他の発表を多数見聞きし、様々な情報を本校に持ち帰り、次につながる方向性を示唆してくれるものと確信している。課題は、次年度以降も学会への参加を継続させ、研究の成果や取り組みを引き続き広い地域へ発信していく必要があることであり、そのためにも研究予算の確保をしていきたい。 ②附属札幌小中ふじのめ学級との研究交流を、互いの研究会等でポスター発表をとおして相互に行えたことは、附属の特別支援学級や特別支援学校がどのような研究を行っているかをそれぞれの地域で発信することになり意義が大きかった。今後も継続していき、次の段階でどんなことができるかを模索し、それを実現させていくことが課題である。また、フォーラム当日に向け、特別支援教育部会において、特別支援教育の学力向上に関する提言校である旭川養護学校やふじのめ学級との連絡、調整を通じて、担当校としての責務を果たすことができた。地域から出された課題にどのように応えていけるかということが今後の課題である。 ③学校案内を見やすく、分かりやすくしたことが、本校見学者や来校者には好評であった。また関係機関にも配布したり、常備さ

	せてもらったりすることで、印刷した 1,000 部はすぐになくなり、本校への関心も広がったと考えられる。別予算でさらに 1,000 部を印刷した。次年度以降、本校への入学希望者を増やすために、この学校案内や他の広報活動をどう結び付けていくかを検討する必要がある。
今後の発展性 （残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500 字程度で記述）	本校の任務や本学の中期目標・中期計画の実現へ向け、引き続き本校の研究や取り組みを全国、全道、地域へ発信していくことは重要であり、附属学校の役割として期待されている。そして、その内容については先導的であり、地域のニーズに応えられるような具体的かつ実践的なものでなくてはならない。そのためにも学会等への参加や発表、ふじのめ学級との研究交流等を推進し、本校教職員の資質や能力の向上に結び付け、それを地域に還元することで、地域の教育力の向上に寄与していきたい。また、広報活動にもさらに力を入れ、小学部、中学部、高等部の教育についても、その一貫性を重視した学部案内を充実させ、本校入学希望者増への取り組みにつなげていきたい。
事業の公表状況 （事業をＨＰで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入）	

（注）当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。